令和５年度　学校経営の改革方針

鈴鹿市立白鳥中学校

Ⅰ　目指す学校像

１　学校教育目標

「心豊かでたくましく生きる生徒の育成」

２　目指す学校像

「誠実で信頼される学校」

３　目指す生徒像

「互いに支え合い，ともに高め合い，活動できる生徒」

Ⅱ　現状と課題

１　学力向上

□強み

生徒：前向きでまわりが働きかければ頑張ろうとする生徒が多い。

教師：学力向上，授業改善の取組において，研修部を中心に分析した課題を共有し，課題解決に向けて各教科で取り組むべき内容が明確化しつつある。
ＩＣＴを積極的に活用している。

■弱み

生徒：家庭学習が定着せず不十分である。
読書量が少なく，読解力や自らを表現する力に課題がある。
自ら課題を探究し，解決する力が弱い。

教師：めあての提示とふり返りの設定に課題がある。
各教科で課題解決に向けたＰＤＣＡサイクルを意識した授業改善とその継続的な取組が必要である。

２　生徒指導

□強み

生徒：部活動や学校行事に熱心に取り組む生徒が多い。
かかわれば教師の思いが伝わる生徒が多い。挨拶ができる。

教師：生徒の情報を共有し，適切な対応と，未然防止に努めている。

家庭：学校の教育方針に協力的である。

■弱み

生徒：コミュニケーション不足によるトラブルが多い。
積極性や自分で考えて行動する力が弱い。

教師：特別支援教育の視点に基づく生徒理解や個に応じた対応への共通理解が必要である。

３　人権教育

□強み

生徒・教師：杉の子特別支援学校との交流が伝統となっている。

■弱み

生徒：他者と関わる力や，他者の問題を自分のこととしてとらえる力が弱い。

教師：教職経験年数により人権感覚と指導力に個人差がある。

４　地域等連携

□強み

学校運営協議会において，教育課題への学校の取組に対する理解が図られ，熟議が行われている。

地域で交通安全指導や JR 加佐登駅防犯パトロールを実施している。

杉の子特別支援学校と交流したり，生徒が地域行事に参加したりしている。

■弱み
本校教育活動に対する理解をさらに地域や家庭に浸透させ，学校教育活動の充実に向けて連携協力を推進する必要がある。

Ⅲ　中長期的重点目標

キャリア教育の視点で教育活動全体をとらえ，中学校教育のねらいの実現に迫る。
～社会で生きていく上で必要な力（望ましい生き方，望ましい進路選択，等）の育成～

1　学力向上
・誰もが意欲的に取り組む「わかる授業」の実践
・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

2　生徒指導
・組織的な指導体制の確立
・問題行動等の未然防止のため成長を促す指導の充実
・不登校を生まない学級・学校づくり
・個々の教育的ニーズに応じた支援体制の充実

3　人権教育
・人権意識の向上
・系統的・継続的な人権学習や道徳教育の推進
・安心して過ごせる学級づくり

4　地域等連携
・地域とともにある学校
・安全で安心な学校
・家庭・地域との連携を密にした開かれた学校

5　教職員の健康とコンプライアンスの推進
・総勤務時間の縮減に向けて，校長等と教職員が一体となった実効ある取組の推進
・体罰，ハラスメントのない職場づくり

Ⅳ　本年度の行動計画

1　学力向上
◆短期的活動目標
ア　わかる授業の実践，教師の指導力向上
イ　「めあて」「ふり返り」の質的向上，授業改善
ウ　学ぶ姿勢，学ぶ意欲の向上
エ　家庭学習の定着
◆具体的な手だて
ア　「互いに支え合い，ともに高め合い，活動できる生徒の育成」を目指した，わかる・伝える授業の実践・研究に取り組む。　「授業力UP５★」の活用
イ　全国学調・みえスタの問題や結果からみられる課題を，すべての教科で共有し，課題改善に向けた授業改善に取り組む。　教科部会の充実
ウ　ＩＣＴを効果的に活用し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組む。
エ　ＩＣＴを活用した課題による家庭学習や県教委の「学 Viva」セットやワークシート等を積極的に活用するなど改善を図る。

２　生徒指導

◆短期的活動目標

ア　チーム支援としての組織的な対応

イ　生徒理解に基づく指導と問題行動の未然防止

ウ　不登校を改善する支援体制「未然防止・初期対応・自立支援」の充実

エ　相談体制の充実

オ　個に応じた指導

◆具体的な手だて

ア　報告体制（報告・連絡・相談）を徹底し，迅速で丁寧な対応を組織的に取り組む。

イ　特別支援教育の視点に基づく生徒理解や効果的な手立てを組織的に協議検討し，問題行動を未然に防止する。

ウ　生徒指導部会と教育相談部会を週１回ずつ時間割に位置づけて開催する。
困り感のある生徒の情報共有と個別の支援やてだてを協議し，こまめな家庭連絡や組織的な家庭訪問を実施し，保護者との信頼関係を深める。

エ　生徒の個々の悩みや不安に積極的にかかわる教育相談体制を充実するとともに，カウンセリングマインドで生徒に寄り添い生徒理解に努める。

オ　特別支援教育コーディネーターを中心に個別の指導計画・支援計画を作成し，生徒指導部会や教育相談部会等で支援やてだてについて協議検討する。
特別支援教育の視点に立った学習環境を整備する。
ＳＣや関係機関との連携を積極的に推進する。

３　人権教育

◆短期的活動目標

ア　人権教育推進計画に基づく人権学習を軸に，全教育活動を通しての人権教育の実施

イ　互いに認め合い，支え合う集団を育成するための仲間づくり

ウ　教職員の人権意識を高めるための研修

エ　校区連携

◆具体的な手だて

ア　学校生活を中心に生徒を主体とした仲間づくりやともに学び合う環境をつくる中で人権学習を実践する。

イ　グループエンカウンターやアサーションを中心としたＳＳＴに取り組み，一人ひとりが自分の思いを安心して出し合える集団を育成する。

ウ　教職員自身が人権侵害を見逃さないよう人権感覚を磨く。

エ　校区で系統的な人権教育カリキュラムづくりに努めるとともに，保護者・地域とも連携しいじめや差別のない集団づくりを推進する。
杉の子特別支援学校を含む校区内の小学校等との交流や校区人権フォーラムを推進する。

４　地域等連携

◆短期的活動目標

ア　コミュニティースクールの充実

イ　学校支援ボランティアの導入

ウ　校区内小中高連携の推進

エ　学校経営方針，教育活動方針の家庭・地域への周知

オ　登下校時の安全確保

◆具体的な手だて

ア　学校運営協議会で学校の課題を明確に提示し，熟議と具体的な取組を展開する。
学校関係者評価をもとに課題を改善し，教育活動の向上につなげる。

イ　ボランティアを募集し，効果的に活用できる体制づくりを整備する。

ウ　定期的に情報交換し，校区の課題を共有し，改善に向けた取組を協議する
出前授業，交流授業，授業参観等を実施する。

エ　学校通信，ホームページ，各種会議で情報を発信する。

オ　ＰＴＡや地域と連携した交通安全指導を実施する。

5　教職員の健康とコンプライアンスの推進

◆短期的活動

ア　総勤務時間の縮減

イ　関わり合う職場環境づくり

ウ　コンプライアンスの推進

◆具体的な手だて

ア　総勤務時間の縮減に向けて目標を設定し，働き方改革を推進する。

・一人当たりの月平均時間外労働

・年 360 時間を超える時間外労働者

・月 45 時間を超える時間外労働者

・一人当たり年間休暇取得

・設定した日の定時に退校できた職員の割合

・予定通り休養日を実施できた部活動の割合

・放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合

イ　若手教員育成を中心に OJT を推進する。

ウ　業務内容を平準化する。

エ　コンプライアンス研修を実施し，支え合い風通しのよい職場環境をめざす。